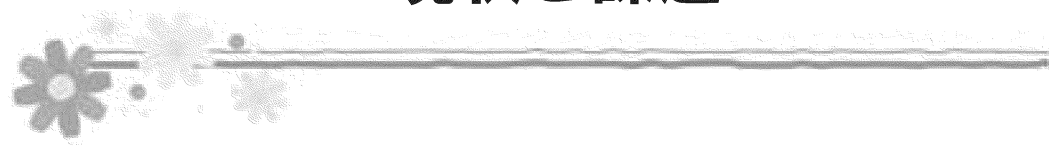


**第2章**  
**本市の子どもと家庭を取り巻く**  
**現状と課題**



## 第2章 本市の子どもと家庭を取り巻く現状と課題

### 1 本市の状況

#### (1) 人口の推移（実績と将来予測）

2000（平成12）年に45,486人であった本市の人口は、2005（平成17）年に43,352人、2015（平成27）年には38,748人と減少の一途をたどっており、国立社会保障・人口問題研究所の調査によると、2045（令和27）年の人口は21,508人程度になると推測されています。

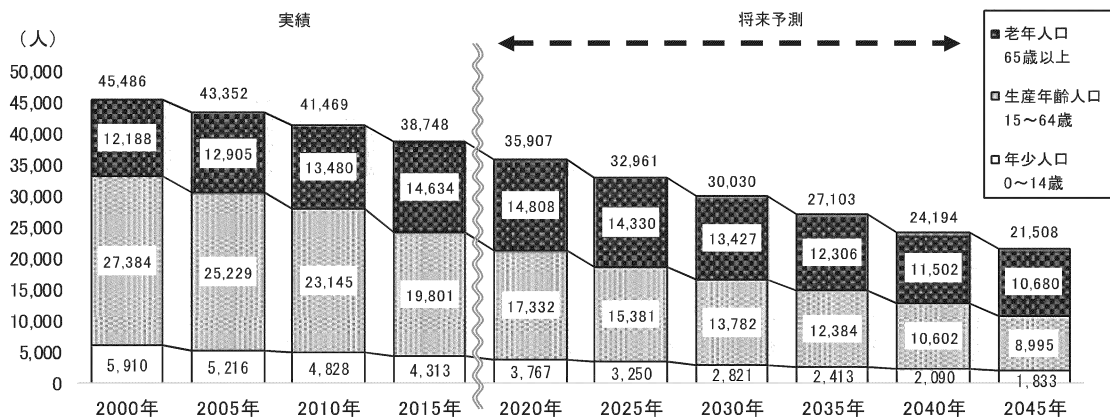
この調査により、全国の7割の市町村において、2045（令和27）年の総人口は2015（平成27）年に比べて2割以上減少すると推計されています。

本市の人口減少も例外ではなく、2045（令和27）年には年少人口（0～14歳）が10%未満、生産年齢人口（15～64歳）が50%未満という、少子・高齢化のますますの進行と労働力不足に伴う産業の低迷が懸念されています。

人口減少を食い止めるためには、本市から都市部への人口流出に歯止めをかけ、若い世代が安定して働きながら子育てをし、住み慣れた地域で誰もが安心して暮らしていける取組が必要です。

また本市における定住人口の増加を図り活力ある地域社会を実現するため、Iターン者やUターン者などに対し、転入の奨励金や住宅購入、家賃補助など、移住者増加に向けた住宅支援施策の推進と県内外へ『白杵市の魅力』を伝えるための広報強化が重要になります。

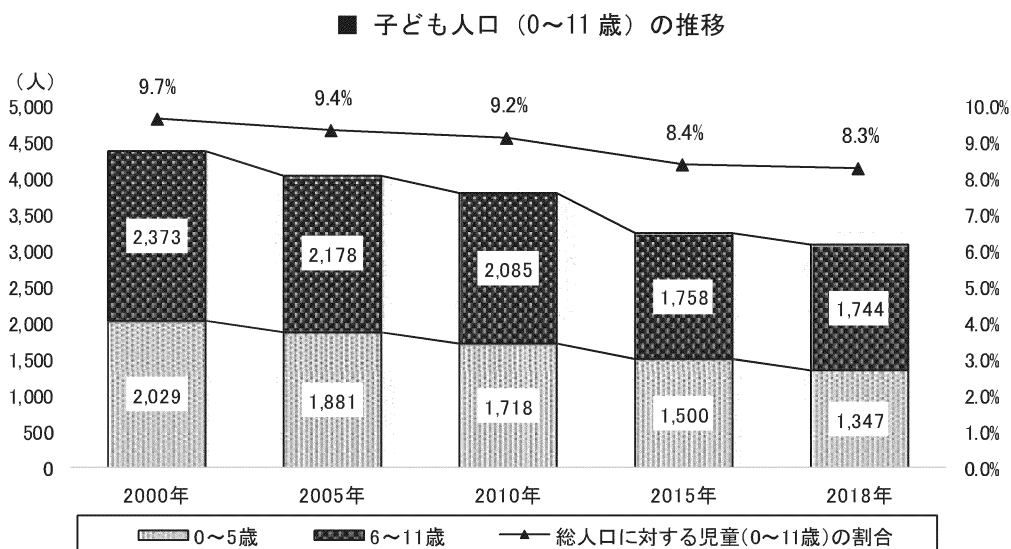
■ 3階級別人口の推移（実績と将来予測）



出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）』  
 ※総人口には年齢不詳・外国人含む

## (2) 子ども人口の推移

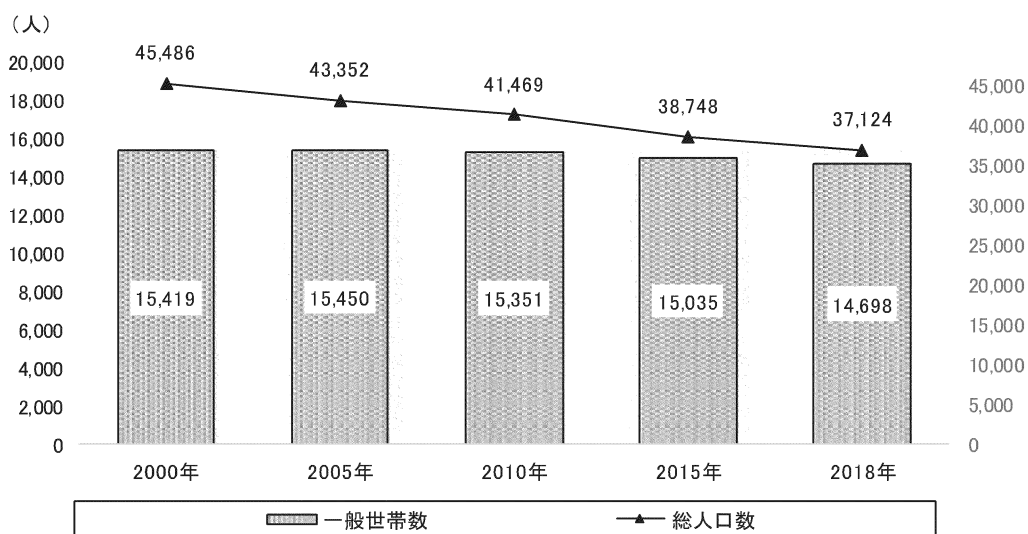
総人口に対する児童（0～11歳）の割合は、2018（平成30）年には8.3%となっており、子ども人口も年々減少しています。



出典：総務省「国勢調査」。2018年は大分県統計調査課「大分県の人口推計(10月1日時点)」  
 ※児童(0～11歳)の割合は総人口に占める児童の割合  
 ※総人口には不詳外国人・含む

## (3) 世帯の推移

本市の世帯数は、2010（平成22）年以降、人口の減少とともに減少しています。

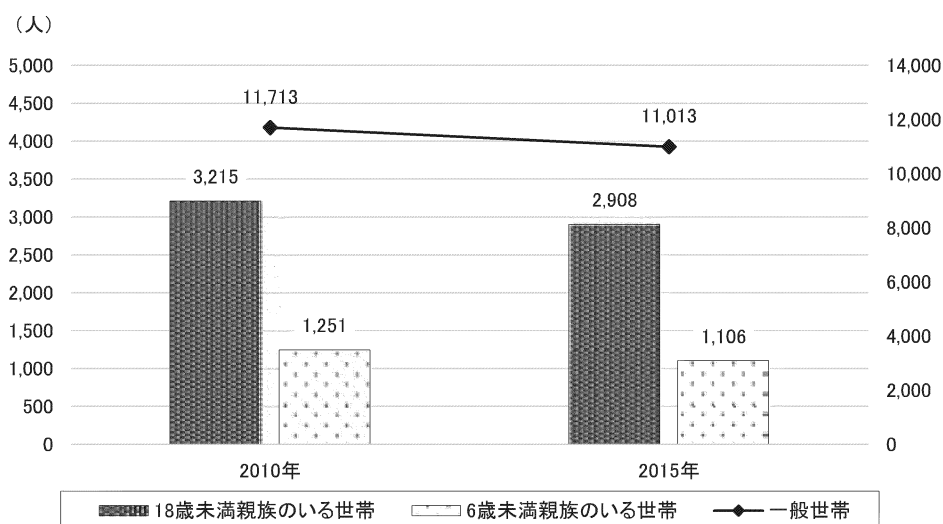


出典：総務省「国勢調査」。2018年は大分県統計調査課「大分県の人口推計(10月1日時点)」  
 ※総人口には不詳外国人・含む

#### (4) 子育て世帯の推移

2010（平成22）年から2015（平成27）年の子育て世帯の推移をみると、一般世帯、6歳未満親族のいる世帯、18歳未満親族のいる世帯ともに減少しています。

■ 子育て世帯（18歳未満の子どもがいる世帯）の推移



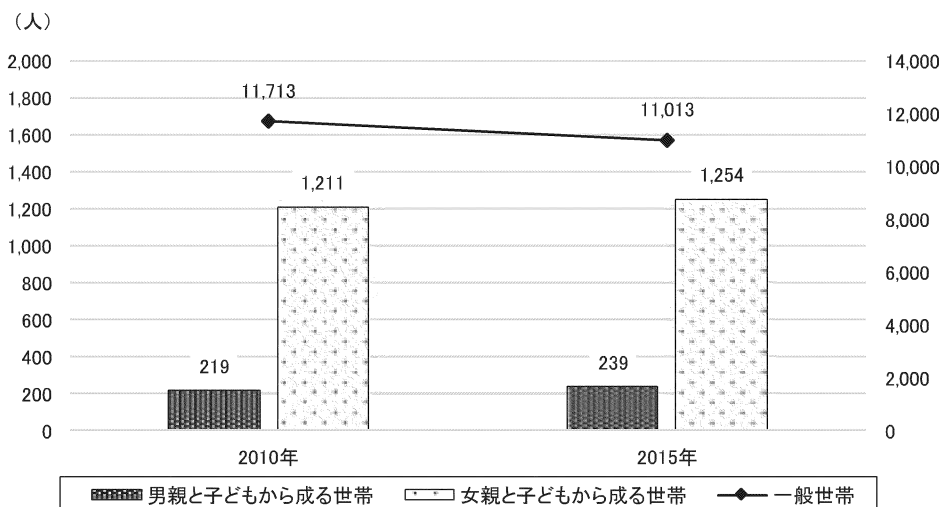
出典：総務省「国勢調査」

※一般世帯は世帯の総数ではなく、「親族のみの世帯」の数

#### (5) ひとり親世帯の推移

ひとり親世帯の推移をみると、男親と子どもから成る世帯、女親と子どもから成る世帯ともに増加しています。

■ ひとり親世帯の推移



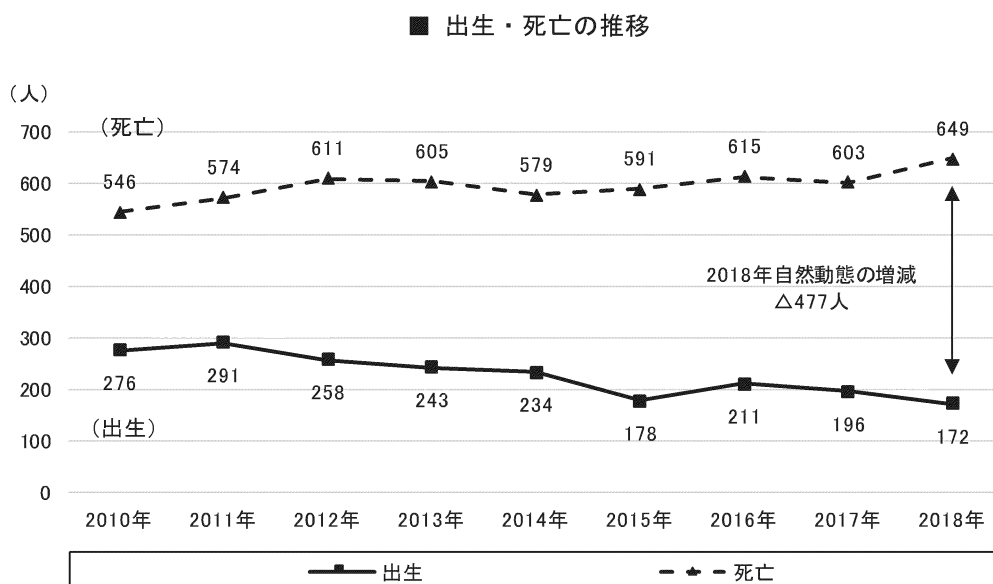
出典：総務省「国勢調査」

※一般世帯は世帯の総数ではなく、「親族のみの世帯」の数



## (6) 自然動態（出生・死亡）の状況

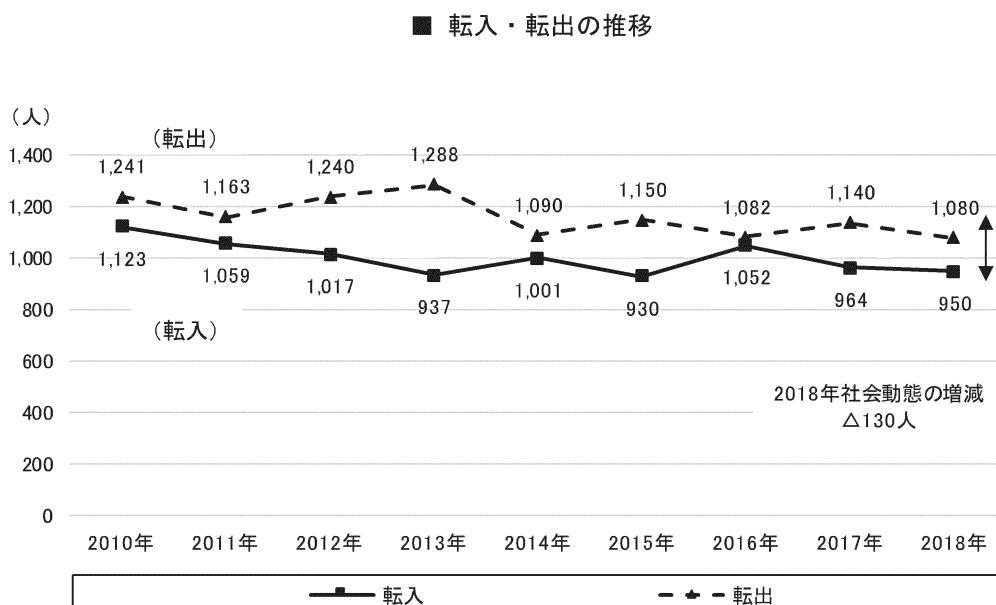
出生・死亡の推移をみると、出生では2017（平成29）年から再び減少傾向となり、死亡では、2018（平成30）年から増加傾向となっており、人口が減少し続けています。



出典：大分県統計調査課「大分県の人口推計(各年10月1日時点)」

## (7) 社会動態（転入・転出）の状況

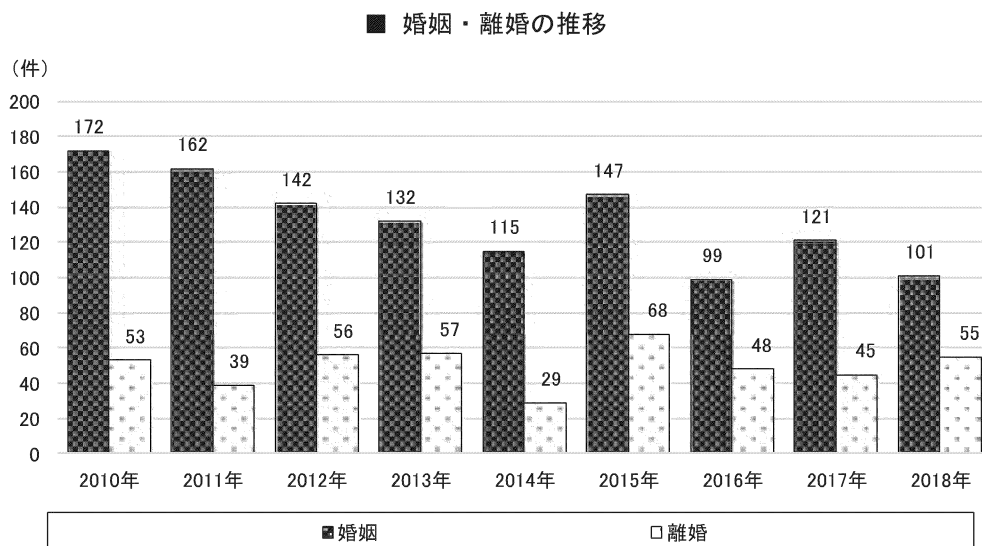
転入・転出の推移をみると、転入では2017（平成29）年から再び減少傾向となり、転出では、2018（平成30）年から再び減少傾向となっております。



出典：大分県統計調査課「大分県の人口推計(各年10月1日時点)」

## (8) 婚姻・離婚の状況

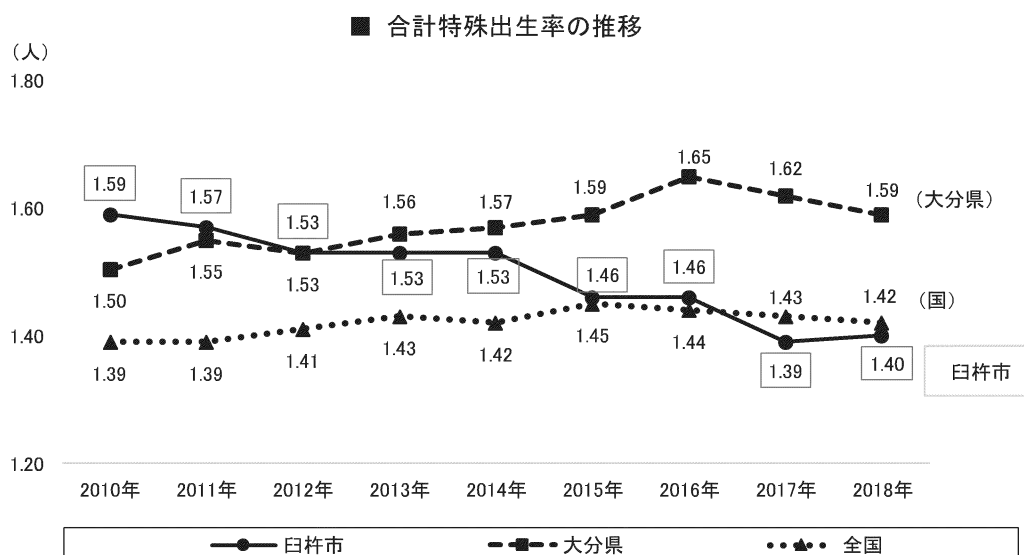
婚姻・離婚の推移をみると、婚姻では2016（平成28）年から100件前後で推移し、離婚は2016（平成28）年から50件前後で推移しています。



出典：厚生労働省「人口動態統計」

## (9) 合計特殊出生率の推移

合計特殊出生率は、2011（平成23）年以降は横ばいから減少傾向となっており、2017（平成29）年以降は、国・大分県を下回った水準で推移しています。

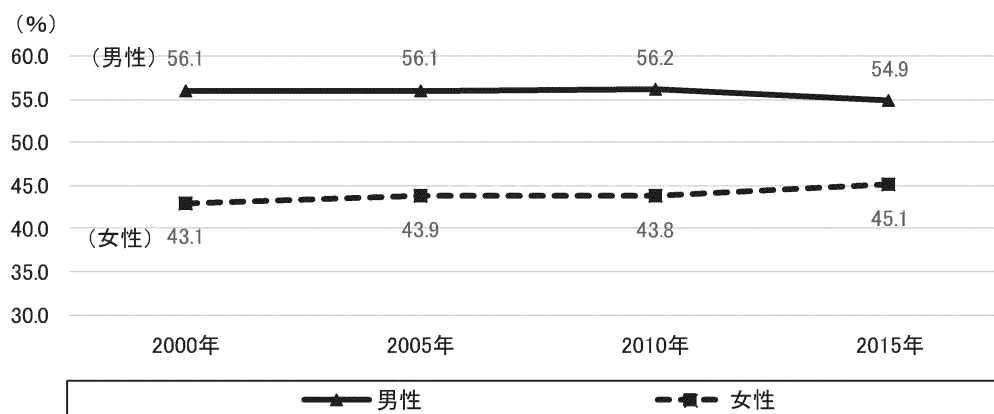


出典：厚生労働省「人口動態調査」、各市町村の合計特殊出生率は、県福祉保健企画課調べ  
 ※合計特殊出生率とは15～49歳の1人の女子の年齢別出生率を合計したもので、1人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生涯の間に産むとしたときの平均子ども数に相当する。

## (10) 就業率の推移

15歳以上の就業率の推移をみると、男性の就業率は横ばい状態からやや減少傾向となっているが、女性の就業率は増加傾向となっています。男女平等の機運の高まりに始まり、2015（平成27）年に女性活躍推進法も制定され、女性の社会進出の割合が高くなっていることも要因の1つと考えられます。

■ 男女別の就業率の推移



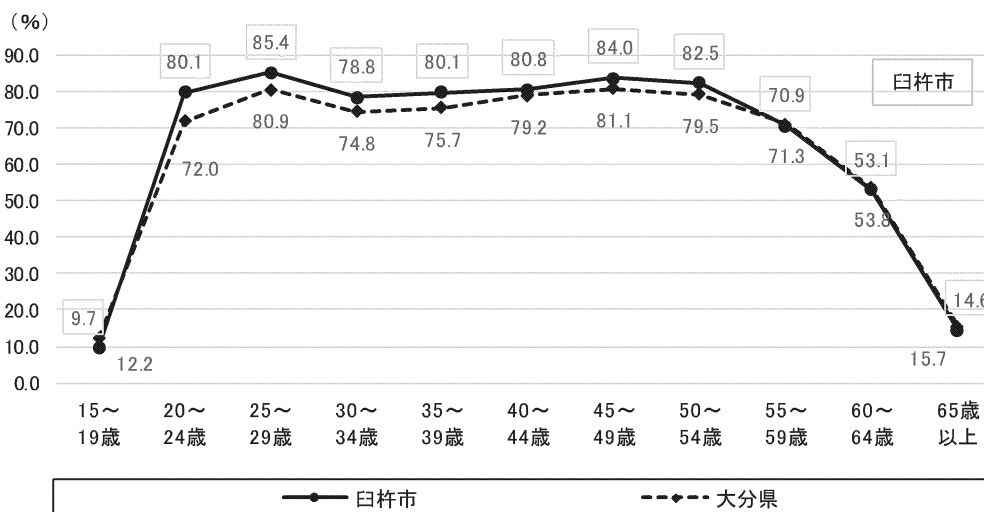
資料：総務省「国勢調査」

※就業率とは、生産年齢人口に占める総就業者数を男女別にみた割合

## (11) 女性の労働力率の推移

2015（平成27）年国勢調査における女性の年齢階級別労働力率を大分県と比較すると、20代前半から50代後半の年齢区分において、割合が高くなっています。

■ 女性の年齢階級別労働力率の推移（2015年国勢調査）



資料：総務省「国勢調査」

※労働力率とは、生産年齢人口に占める労働力人口の割合

## 2 アンケート調査結果（抜粋）からみえる課題

### （1）実態調査の概要

子育て支援等に関わるニーズの把握のため、2019（平成31）年1月から2月にかけて子育て中の保護者を対象としたアンケート形式の実態調査を行いました。

調査結果から得られた子育ての現状や今後の子育て支援に係る意向等は、新たなサービスの目標事業量等の設定や子育て支援施策推進の検討資料として活用します。

#### ■ 2018（平成30）年度実態調査の概要（再掲）

調査対象者	臼杵市在住の就学前児童(0～6歳)及び小学6年生までの子どもがいる全世帯 ※対象の子どもは末子としています。						
調査期間	2019(平成31)年1月30日～2月21日						
調査方法	施設経由及び郵送による無記名回答方式						
配布・回収 状況	2018年度 (今回)	配布件数	回収件数	無効 回答数	有効 回答数	回収率	有効回答率
	就学前	1,099件	811件	2件	809件	73.8%	73.6%
	小学生	860件	521件	0件	521件	60.6%	60.6%
	合計	1,959件	1,332件	2件	1,330件	68.0%	67.9%
	2013年度 (前回)	配布件数	回収件数	無効 回答数	有効 回答数	回収率	有効回答率
	就学前	1,286件	915件	0件	915件	71.1%	71.1%
	小学生	927件	669件	0件	669件	72.1%	72.1%
合計	2,213件	1,584件	0件	1,584件	71.5%	71.5%	

※無効回答とは、すべて白紙での回答や、宛先不明等により調査が正常に実施できなかったものです。

### （2）調査の留意点

1. 回答結果の割合「%」は、有効サンプル数に対し、それぞれの回答数の割合を小数点以下第二位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100%を超える場合があります。
2. 複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して割合を示しているため、合計が100.0%を超える場合があります。
3. 図表中の「n」（number of case）は、集計対象者総数を表します。
4. 本文中の選択肢について、長文の場合はレイアウトの都合上、簡略化したり省略して表記したりしている場合があります。

### (3) 実態調査の結果（抜粋）

#### ① 子どもとご家族の状況について

ア) 子育てを主に行っている人（就学前・小学生：問6）

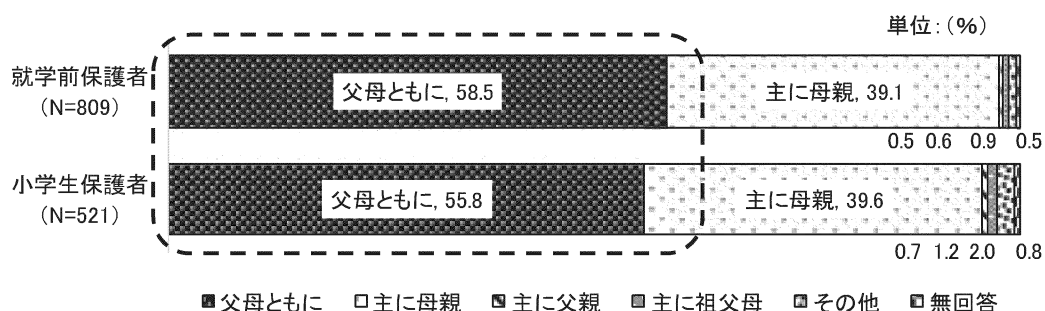
【調査結果】

- 子育てを主に行っている人は、今回（H30）の調査では就学前児童の保護者、小学生児童の保護者ともに「父母ともに」の割合が5割以上と最も高く、次いで「主に母親」となっています。
- 前回（H25）と比較すると、就学前児童の保護者、小学生児童の保護者ともに「父母ともに」の割合が増加しています。

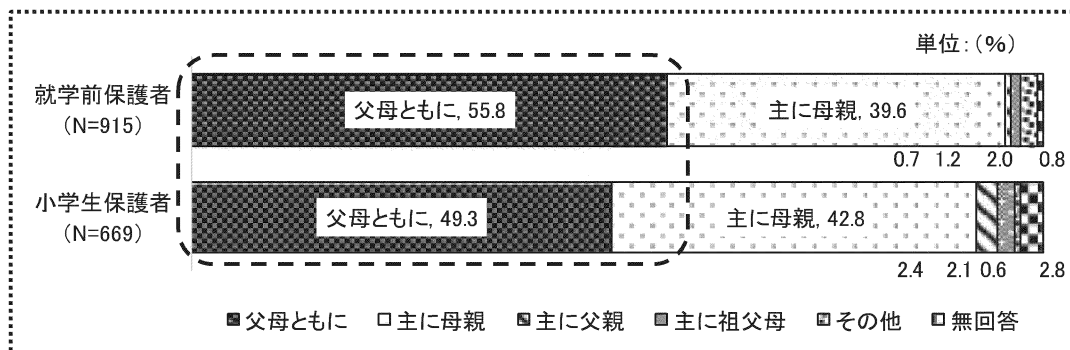
#### 【調査結果から見えてきた検討課題】

「父母ともに」の割合が高くなっている状況で、女性の就業率の割合が年々高くなっており、今後さらに父親の子育て参画が求められます。

#### ■ 子育てを主に行っている人（今回 H30 調査）



#### ■ 子育てを主に行っている人（前回 H25 調査）



## ② 子どもの育ちをめぐる環境について

### ア) 子育ての相談先について（就学前・小学生：問8-1）

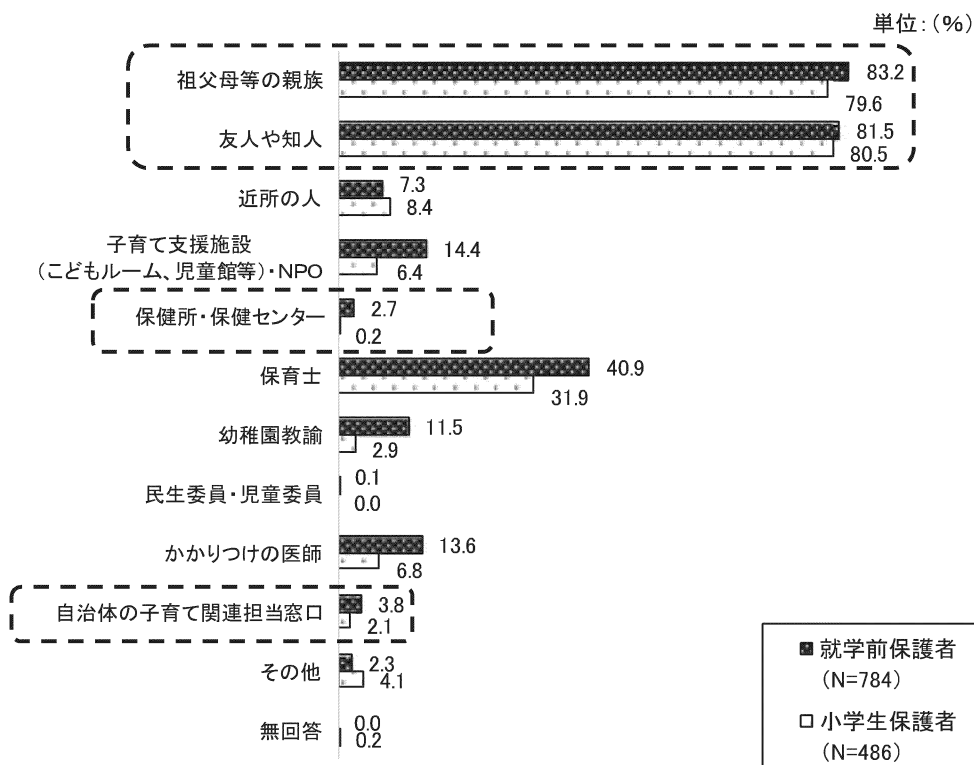
#### 【調査結果】

- 相談先について、今回（H30）の調査では就学前児童の保護者、小学生児童の保護者ともに「祖父母等の親族」「友人や知人」の割合がそれぞれ7割以上となっています。
- 前回（H25）と比較すると、就学前児童の保護者では「子育て支援施設」「友人や知人」、小学生児童の保護者は「かかりつけの医師」「友人や知人」の割合が主に高くなっています。

#### 【調査結果から見えてきた検討課題】

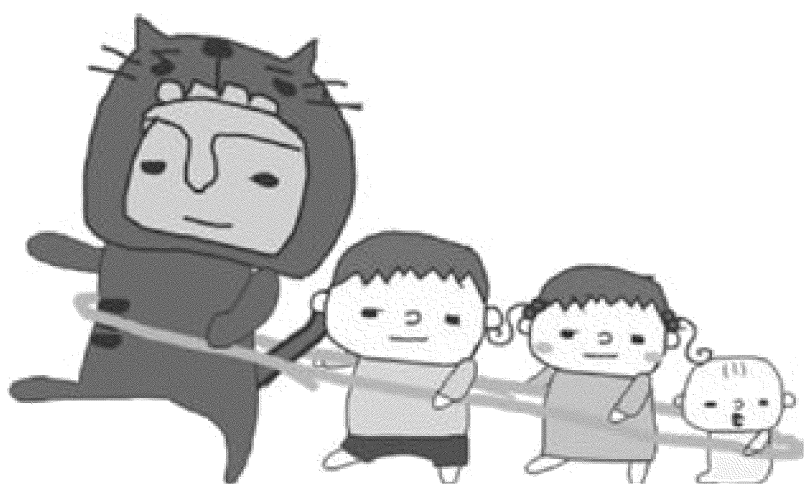
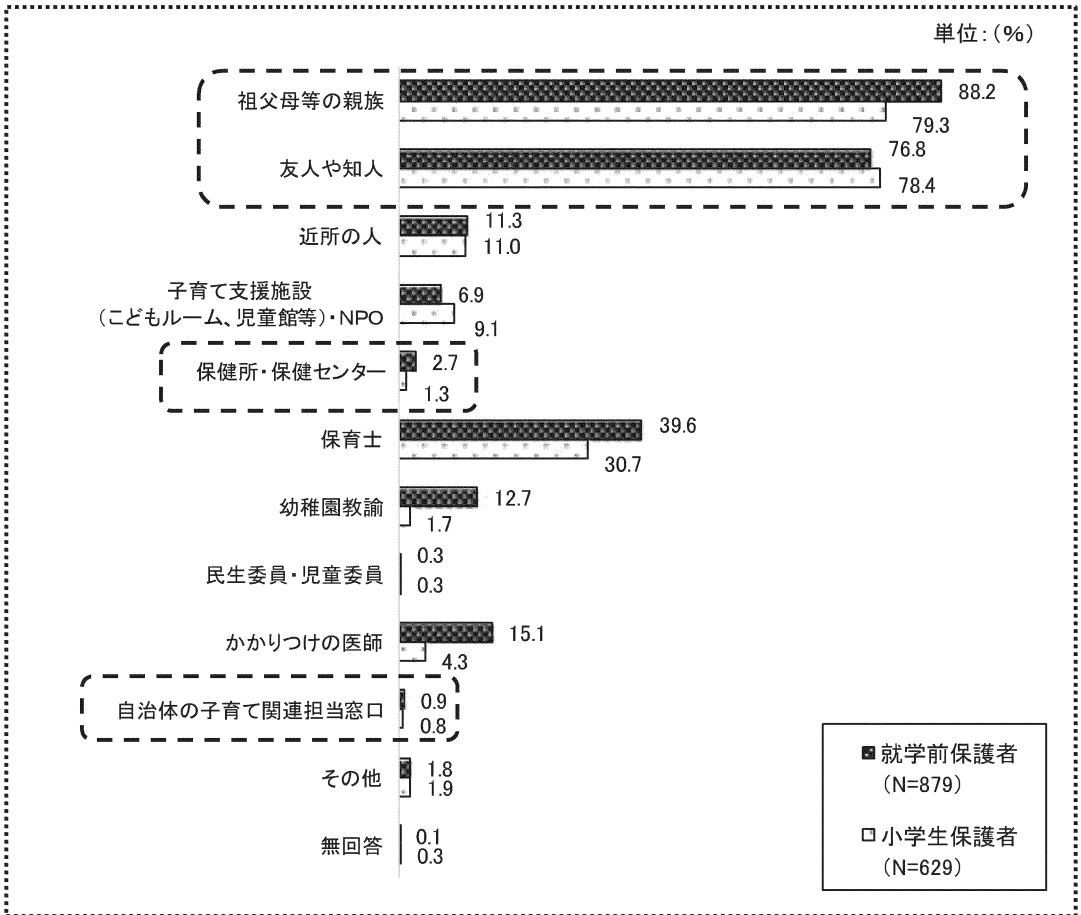
子育てに関わる相談先は子どもの成長とともに変化します。公的な専門機関や専門職等の周知を図るとともに、相談割合の低い専門機関（自治体の担当窓口、子育て支援施設や保健所・保健センター等）の相談窓口の機能強化を進める必要があります。

#### ■子育ての相談先について（今回 H30 調査）※複数回答





■子育ての相談先について（前回 H25 調査）※複数回答



### ③ 子どもの保護者の就労状況について

#### ア) 母親の就労状況について（就学前・小学生：問9）

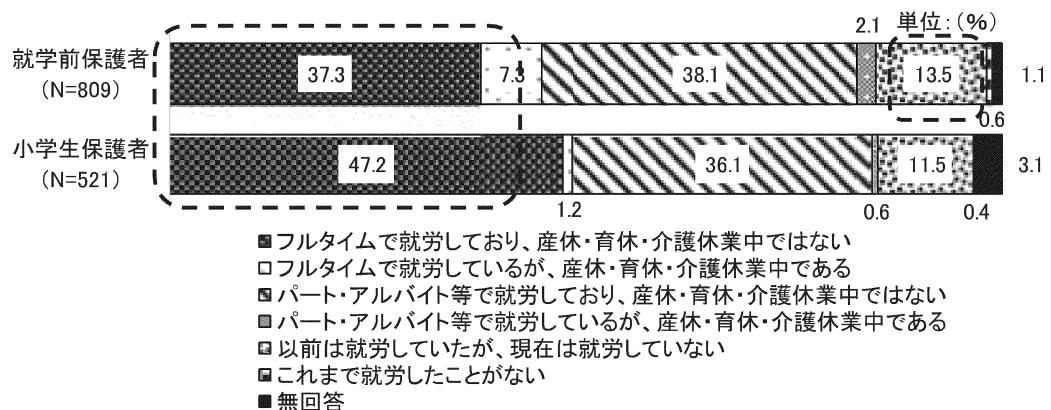
##### 【調査結果】

- 母親の就労状況について、今回（H30）の調査では就学前児童の保護者、小学生児童の保護者ともに「フルタイムで就労しており産休・育休・介護休業中ではない」が3割以上となっています。
- 前回（H25）と比較すると、就学前児童の保護者、小学生児童の保護者ともに「フルタイムで就労しており産休・育休・介護休業中ではない」の割合が増加しており、「以前は就労していたが、現在は就労していない」は低下しています。

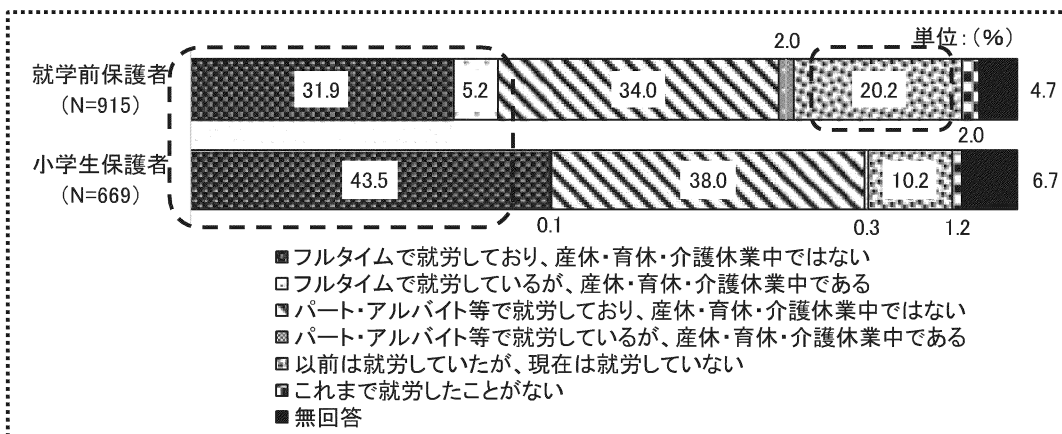
##### 【調査結果から見てきた検討課題】

子育てをしながらフルタイムで働く母親の増加を勘案する必要があります。

##### ■ 母親の就労状況について（今回 H30 調査）



##### ■ 母親の就労状況について（前回 H25 調査）





イ) 母親の今後の就労意向について（就学前・小学生：問9-4）

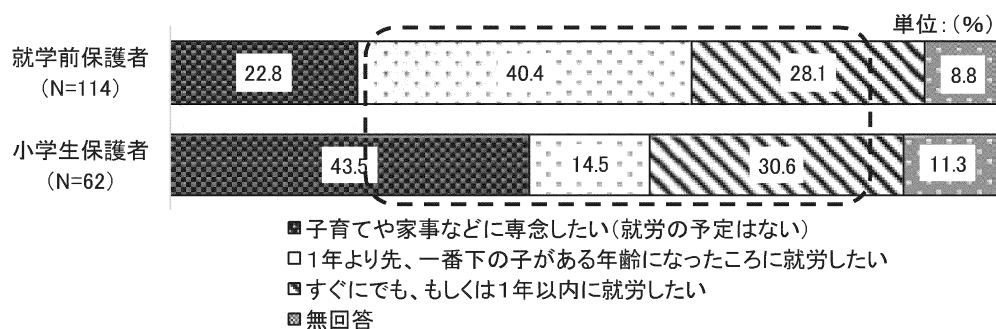
【調査結果】

- 現在は就労していない、これまでに就労したことがない母親の今後の就労意向について、今回（H30）の就学前児童の保護者では、就労したい（「1年より先、一番下の子がある年齢になったころに就労したい」+「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」）が68.5%、小学生児童の保護者では45.1%となっています。
- 前回（H25）の就労したい（「1年より先、一番下の子がある年齢になったころに就労したい」+「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」）の割合を比較すると、就学前児童の保護者は6.4ポイント、小学生児童の保護者では10.2ポイントそれぞれ減少しており、子育てや家事などに専念したい方が増加傾向となっています。

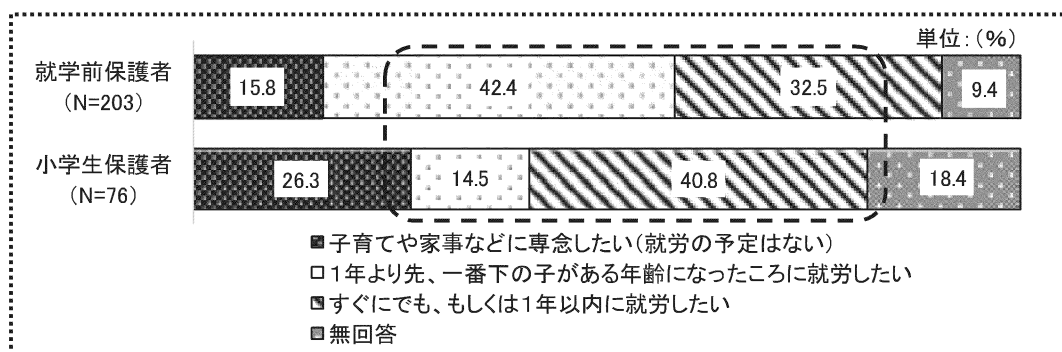
【調査結果から見えてきた検討課題】

子育てや家事などに専念したい方が増加傾向となっている中、仕事と育児の両立ができるよう、子育て中の保護者に対する支援策を強化する必要があります。

■ 母親の今後の就労意向について（今回 H30 調査）



■ 母親の今後の就労意向について（前回 H25 調査）



#### ④ 子どもの平日の定期的な教育・保育サービスの利用状況について

ア) 平日の定期的な教育・保育サービスの利用状況について（就学前：問10）

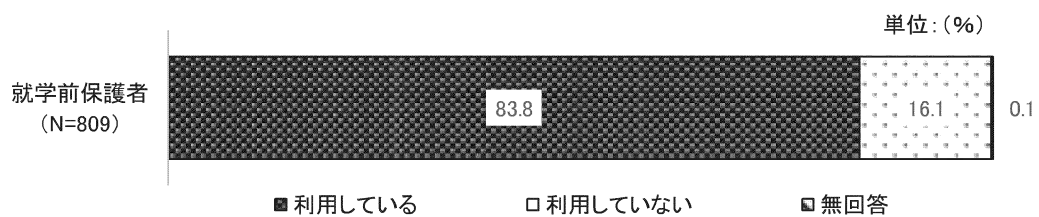
##### 【調査結果】

- 就学前児童の保護者における平日の定期的な教育・保育サービスの利用状況については、全体の8割以上の方が利用しています。
- 前回（H25）と比較すると、「利用している」の割合が4.8ポイント増加しています。

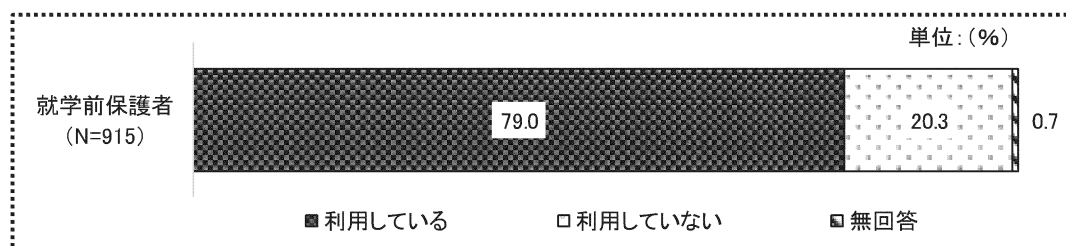
##### 【調査結果から見えてきた検討課題】

就学前児童を持つ保護者の8割以上は平日の定期的な教育・保育事業を利用しています。前回（H25）よりもニーズが高くなっていることから、今後も平日の定期的な教育・保育サービスのニーズは高まる可能性があります。

##### ■平日の定期的な教育・保育サービスの利用有無（今回 H30 調査）



##### ■平日の定期的な教育・保育サービスの利用有無（前回 H25 調査）



## ⑤ 幼児教育・保育の無償化が実施された場合の利用意向について

ア) 幼児教育・保育の無償化について（就学前：問12、問12-1）

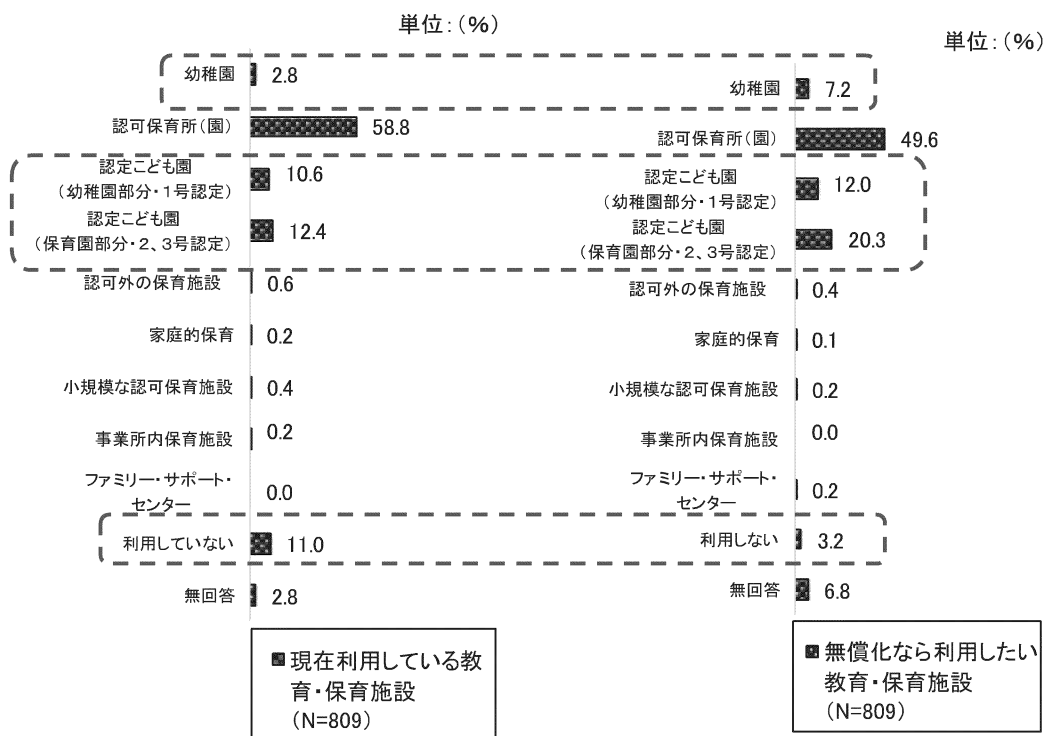
【調査結果】

●現在利用している教育・保育施設と無償化の影響を比較すると、無償化された場合、特に「幼稚園」「認定こども園」の割合が増加している一方、「利用しない」の割合が減少していることから、現在利用していない方が、無償化後に教育・保育施設を利用する割合が増加する見込みがあります。

【調査結果から見えてきた検討課題】

無償化により、特に幼稚園、認定こども園の利用が増加する可能性があります。無償化の影響により「現在、教育・保育施設を利用していない方」の利用も見込まれることから、無償化の影響を勘案する必要があります。

■現在、主に利用している教育・保育施設と無償化された場合、利用したい教育・保育施設（今回 H30 調査）の比較



## ⑥ 子どもの放課後の過ごし方について

ア) 平日の放課後の過ごし方について（就学前：問21、小学生：問11）

【調査結果】（※子どもが5歳以上の方が対象の調査です。）

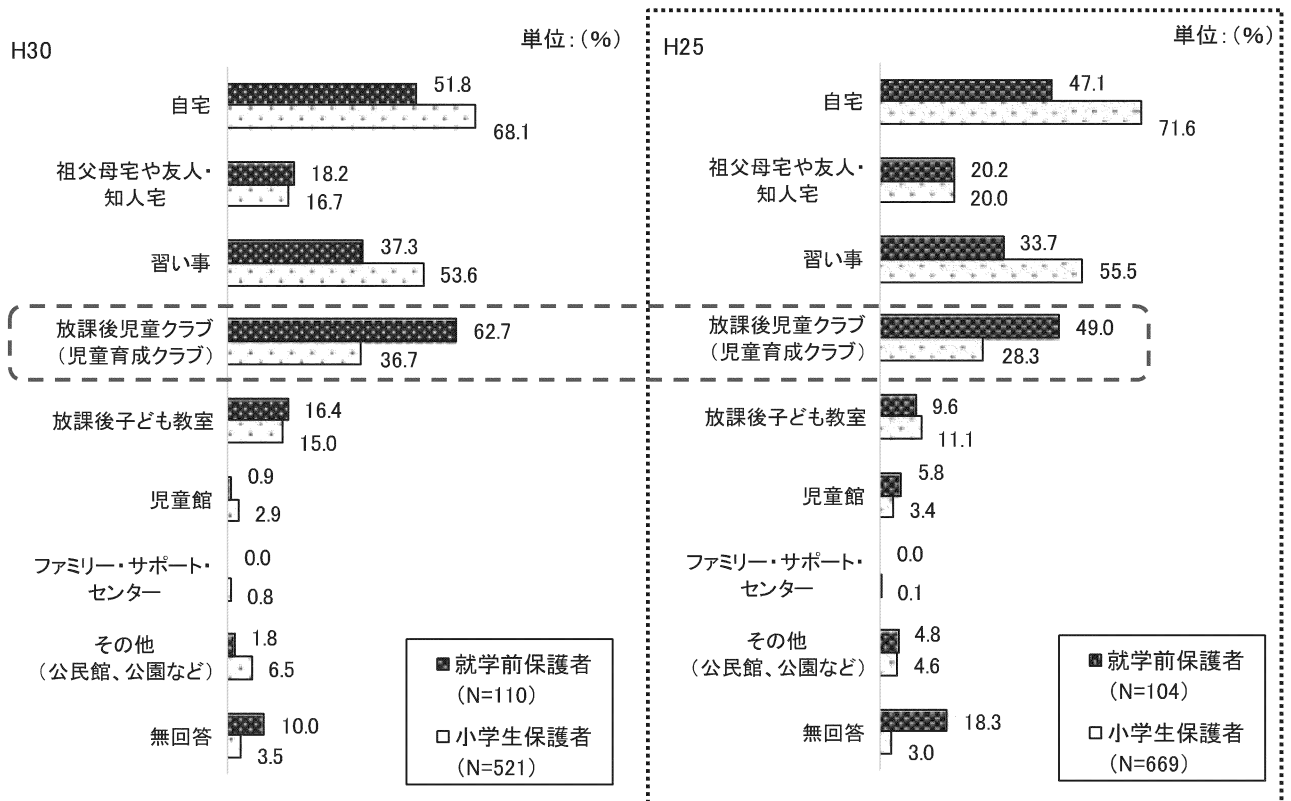
●平日の放課後の過ごし方について、前回（H25）と比較すると、就学前児童の保護者、小学生児童の保護者ともに「放課後児童クラブ」の利用意向が高くなっています。

### 【調査結果から見てきた検討課題】

保育ニーズの高まりから、将来的な放課後児童クラブのニーズが高まる可能性があります。

### ■平日の放課後の過ごし方について

（今回 H30 調査）（前回 H25 調査）※複数回答



イ) 土曜日、日曜日、祝日の放課後児童クラブの利用希望について

(就学前：問22～23、小学生：問11-1～11-2)

【調査結果】

●土曜日、日曜日、祝日の放課後児童クラブの利用希望について、特に土曜日・長期休暇中での利用を希望している人（低学年+高学年）が一定数みられます。日曜・祝日では約8割の方が「利用する必要はない」と答えています。

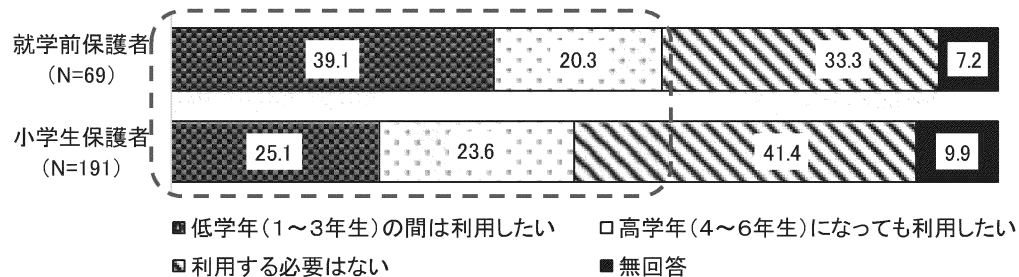
【調査結果から見えてきた検討課題】

土曜日、特に長期休暇中の放課後児童クラブの利用希望に対応することができるよう、指導員の確保を含めた体制の強化を進める必要があります。

■土曜日の放課後児童クラブの利用希望について（今回 H30 調査）

【H30土曜日】

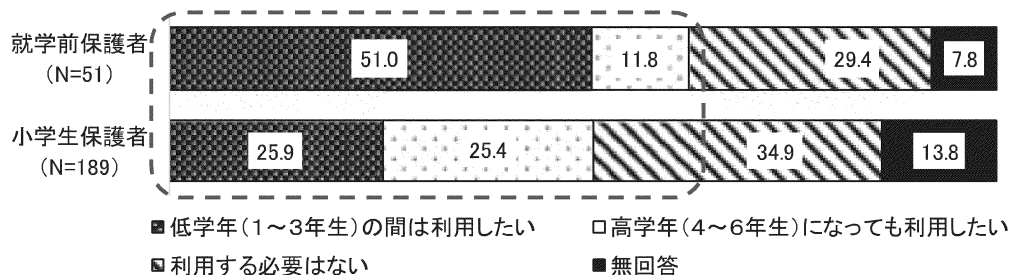
単位：(%)



■土曜日の放課後児童クラブの利用希望について（今回 H25 調査）

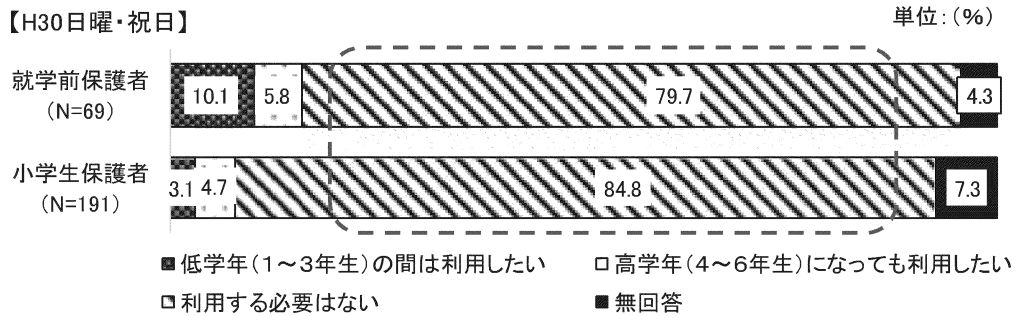
【H25土曜日】

単位：(%)

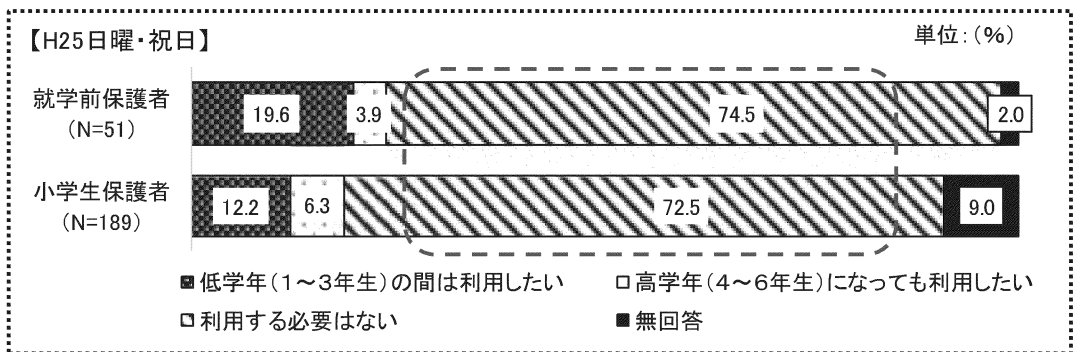




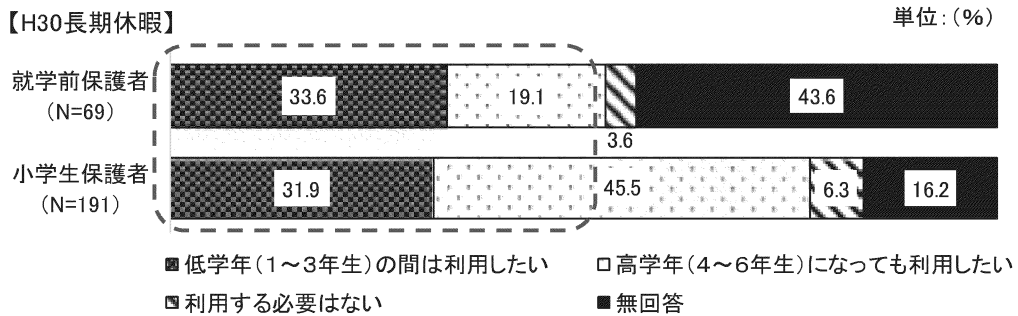
■日曜・祝日の放課後児童クラブの利用希望について（今回 H30 調査）



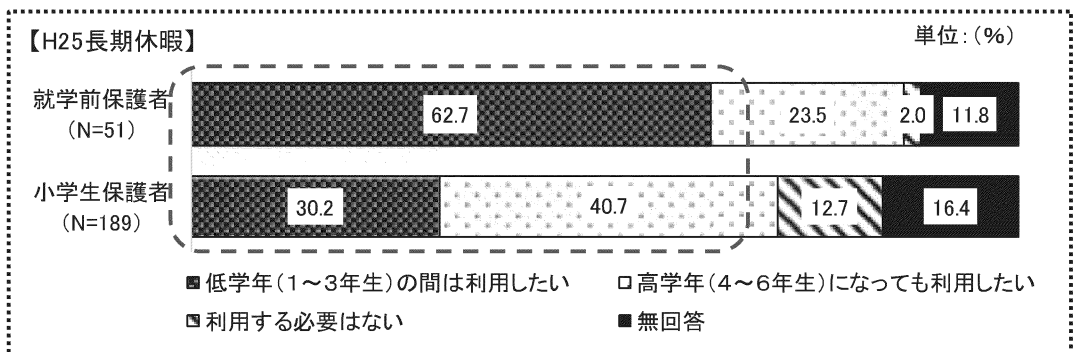
■日曜・祝日の放課後児童クラブの利用希望について（今回 H25 調査）



■長期休暇中の放課後児童クラブの利用希望について（今回 H30 調査）



■長期休暇中の放課後児童クラブの利用希望について（今回 H25 調査）



## ⑦ 子育て満足度（子育てのしやすさ）について

ア) お住いの地域における子育ての環境や支援への満足度について  
 （就学前：問28、小学生：問15）

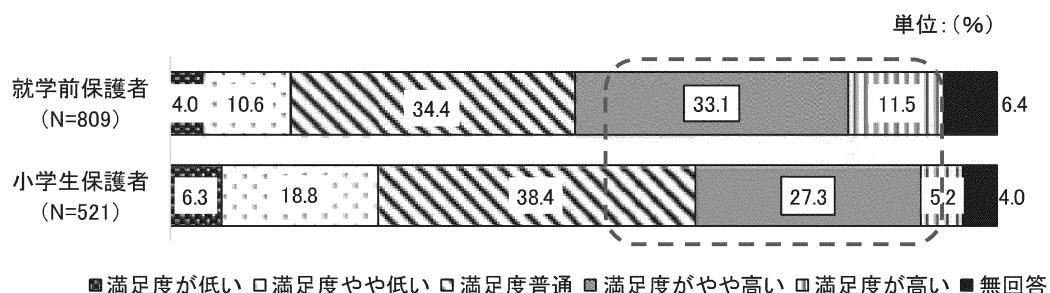
### 【調査結果】

●お住いの地域における子育ての環境や支援への満足度について、就学前児童では満足度が高い（満足度がやや高い+満足度が高い）の割合が44.6%（前回28.5%）、小学生児童の保護者では32.5%（前回22.4%）と、前回（H25）よりも大きく増加しています。

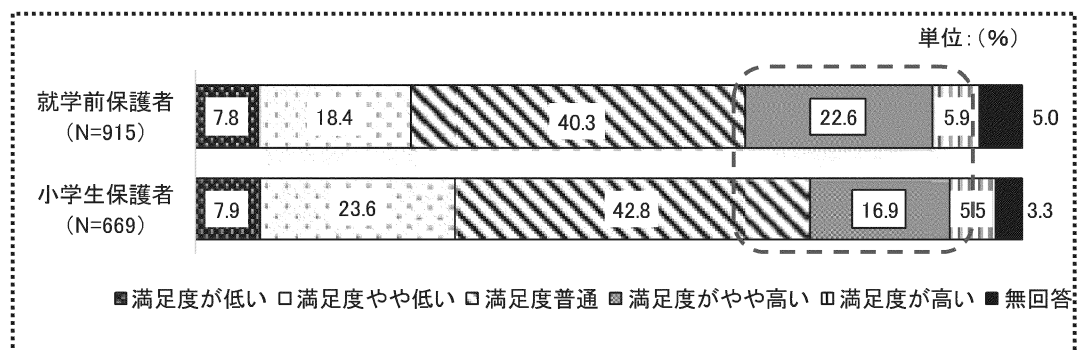
### 【調査結果から見えてきた検討課題】

地域における子育ての環境や支援への満足度について、今回（H30）の調査では就学前児童の保護者は14.6%（満足度がやや低い+満足度が低い）、小学生児童の保護者では25.1%（満足度がやや低い+満足度が低い）の方が「満足度が低い」と回答しており、地域ぐるみの子育てを進めていく必要があります。

### ■お住いの地域における子育ての環境や支援への満足度（今回 H30 調査）



### ■お住いの地域における子育ての環境や支援への満足度（前回 H25 調査）



## ⑧ 臼杵市独自質問について

ア) 臼杵市の子育て支援等に関する項目の中から、充実させてほしいもの  
(就学前：問29、小学生：問16)

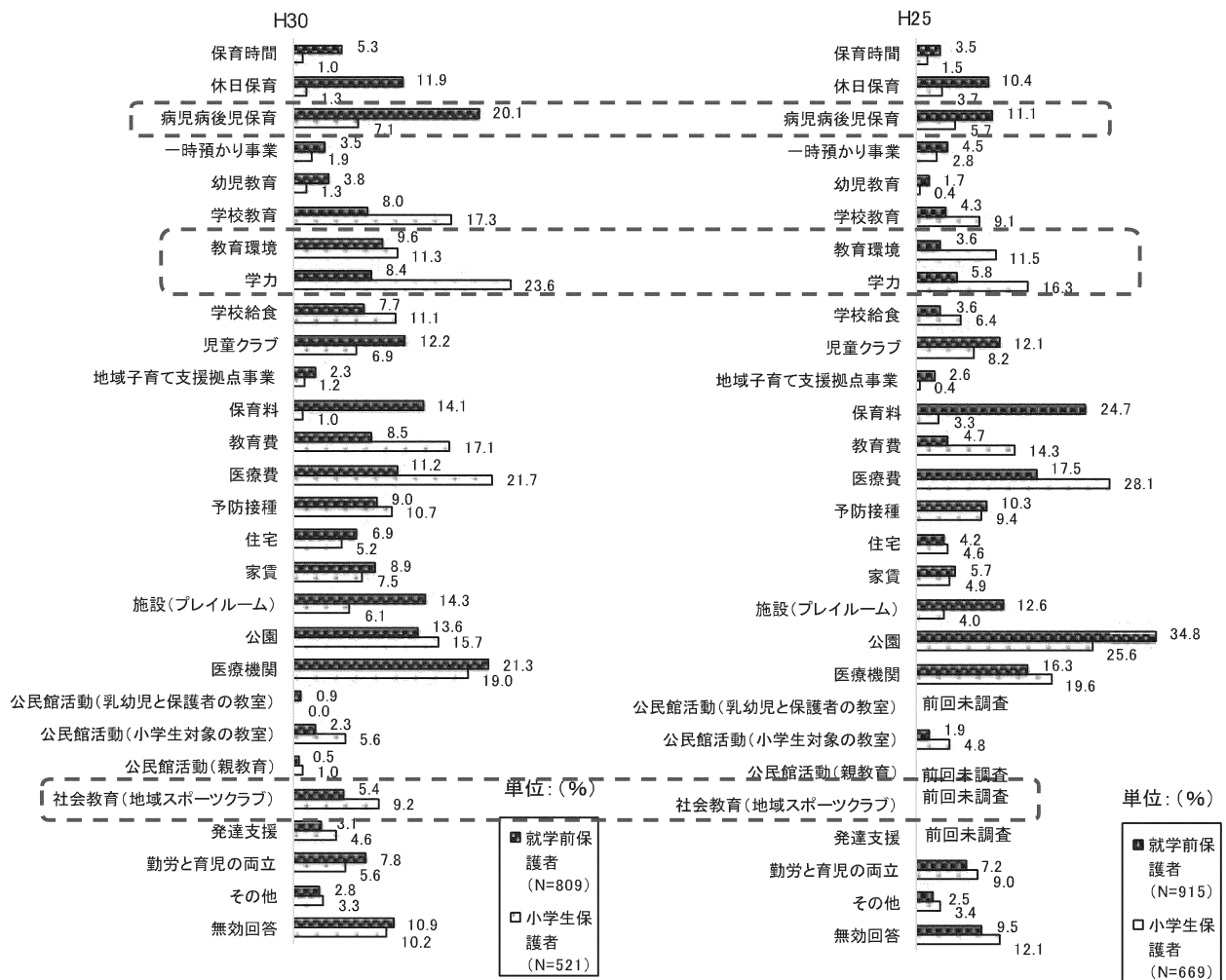
### 【調査結果】

● 臼杵市の子育て支援等に関する項目の中から、充実させてほしいものについて、前回(H25)と比較すると、就学前児童では主に「病児病後児保育」「教育環境」、小学生児童の保護者では主に「社会教育(地域スポーツクラブ)」「学力」の割合が増加しています。

### 【調査結果から見えてきた検討課題】

今回(H30)調査では、就学前児童の保護者では主に「医療機関」「病児病後児保育」といった、子どもの病気の際の対応に対する項目についての充実の要望の割合が高く、その体制づくりと支援体制の強化が必要です。

### ■ 子育て支援で充実してほしいもの(今回 H30 調査)(前回 H25 調査) ※複数回答







イ) 子どもと毎日会話していますか（就学前：問33、小学生：問23）

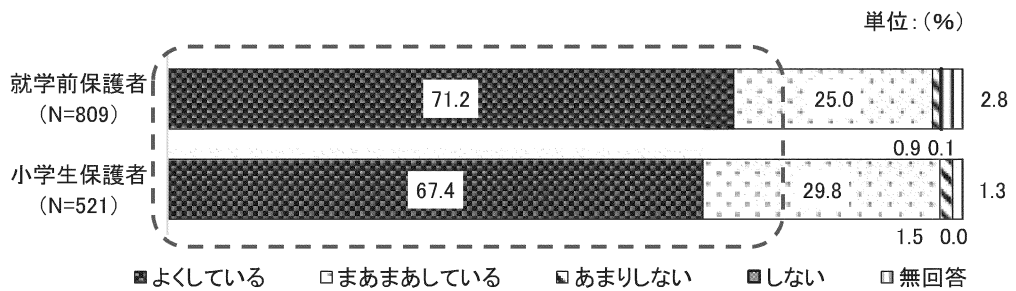
【調査結果】

●子どもと毎日会話していますかについて、前回H25と比較すると、就学前児童の保護者で1.8ポイント減少しています。小学生児童の保護者では、3.4ポイント増加し、子どもとの会話はできているようです。

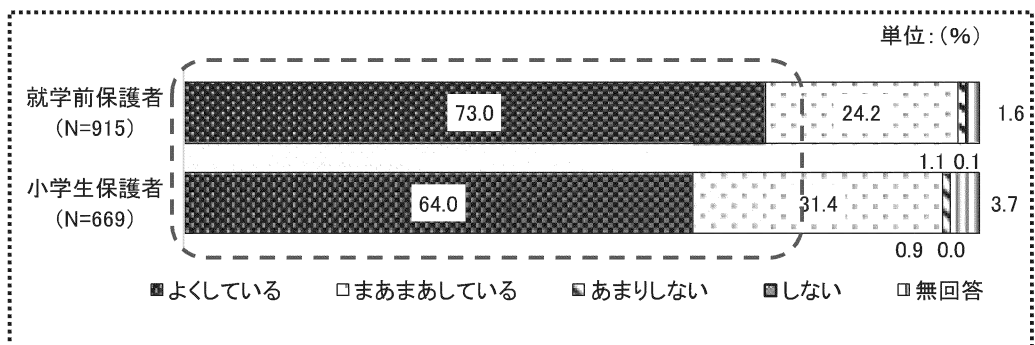
【調査結果から見えてきた検討課題】

小さい頃は保護者から話しかけなくても、子どもは自分からなんでも話してくれていました。しかし、保護者の方の中には仕事や家事に忙しく、なかなか子どもとの時間がとれず、徐々に会話することが減ってしまい、会話のきっかけも作れなくなってしまうケースもあります。会話をすることで作れる関係性もあるので、決してそのままにはせず、どうして会話が必要なのか、どうしたらうまく話すことや話す時間を作ることができるのかなどの疑問や悩みを解決することが大切です。

■1日の子どもとの会話（今回 H30 調査）



■1日の子どもとの会話（前回 H25 調査）



ウ) 子育てをしていて「孤立している」と感じたことがありますか

(就学前：問35、小学生：問25)

【調査結果】

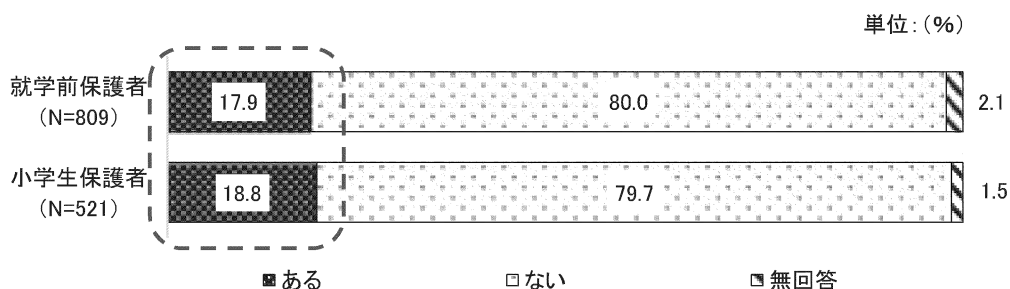
●子育てをしていて「孤立している」と感じたことがありますかについて、就学前児童の保護者では1.9ポイント、小学生児童の保護者では5.6ポイント、それぞれ増加しています。

【調査結果から見てきた検討課題】

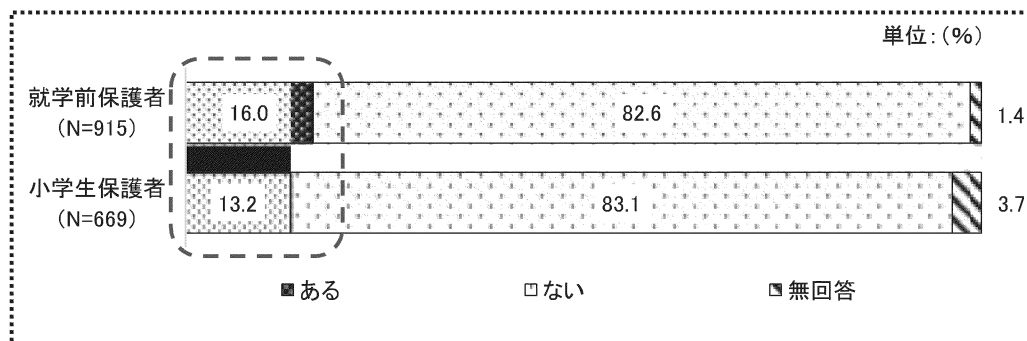
子育てをしていて「孤立している」と感じる保護者が増加しています。「自分の時間がとれない」「子どもがなかなか寝てくれない」など、子育ての悩みはつきることがありません。

それに加えて近年では、核家族化の進行や地域での人間関係の希薄化などにより子育て世帯の孤立化も進んでいます。孤独感を抱いている保護者へ対する支援策が必要です

■子育ての孤立感（今回 H30 調査）



■子育ての孤立感（前回 H25 調査）



エ) 子育てをしていて子どもに対し「育てにくさ」を感じたことがありますか  
 (就学前：問36、小学生：問26)

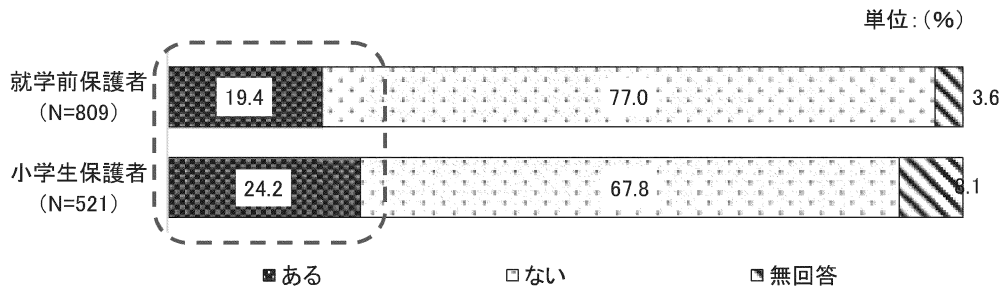
【調査結果】

●子育てをしていて子どもに対し「育てにくさ」を感じたことがありますかについて、「ある」と回答した方の割合が、就学前児童の保護者、小学生児童の保護者ともに前回H25よりも減少しています。

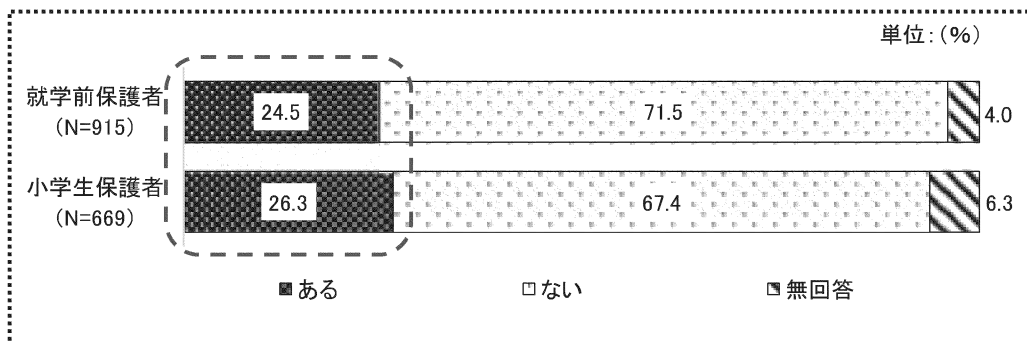
【調査結果から見えてきた検討課題】

「育てにくさがある」と回答した保護者に対する、乳幼児健診や教育・保育施設及び小中学校での支援体制の推進が必要です。

■子どもに対する育てにくさ (今回 H30 調査)



■子どもに対する育てにくさ (前回 H25 調査)





### 3 目標値設定項目の状況

前回の第1期計画で設定した「目標値設定項目の状況（実績）」についてお知らせします。

#### 臼杵市子育て支援事業計画(第1期) ☆臼杵で子育て中☆ 第4章 施策の展開

項目	実績値					目標値
	25年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
<b>第1節 地域における子育て支援環境の整備</b>						
<b>(1)教育・保育環境の整備②保育サービスの充実</b>						
認可保育施設の整備	3ヶ所	5ヶ所	5ヶ所	6ヶ所	6ヶ所	7ヶ所
保育サービスの満足度	88.9%	-	-	-	88.6%	90.0%
<b>(3)教育・保育の一体的提供等に関する体制の確保</b>						
認定こども園の数	1ヶ所	1ヶ所	1ヶ所	2ヶ所	2ヶ所	4ヶ所
<b>(5)子育て支援サービスに関する情報提供の充実</b>						
教育・保育施設のホームページ開設	4ヶ所	5ヶ所	7ヶ所	8ヶ所	8ヶ所	10ヶ所
<b>第2節 子どもが健康に生まれ育つ環境づくり</b>						
<b>(1)妊娠期から支える子育て支援の推進</b>						
妊娠中の妊婦の喫煙率	3.5%	4.6%	2.4%	4.0%	1.6%	0.0%
妊娠中の妊婦の飲酒率	2.7%	0.8%	1.6%	0.6%	0.5%	0.0%
<b>(2)子どもや母親(保護者)の健康づくり</b>						
むし歯のない3歳児の割合	70.0%	77.1%	74.2%	78.9%	73.6%	85.0%
乳幼児健康診査の受診率						
4, 10か月児健診	87.1%	89.0%	89.0%	89.9% (95.9%)	90.9%	97.0%
1歳6か月児健診	92.7%	89.9%	92.1%	92.0%	98.1%	96.0%
3歳6か月児健診	87.5%	86.8%	91.6%	90.8%	96.2%	94.0%
<b>(3)臼杵の環境を意識した食育の推進</b>						
朝食を欠食する子どもの割合(小学生)	7.2%	9.4%	7.5%	4.6%	9.3%	5.0%
毎日家族そろって食事をする割合						
就学前	68.9%	-	-	-	66.6%	80.0%
小学校	66.2%	-	-	-	63.4%	80.0%
<b>(5)小児医療の連携推進</b>						
かかりつけ医を持つ親の割合						
4か月児	80.0%	80.5%	84.5%	85.6%	76.9%	85.0%
1～3歳児	84.6%	97.0%	97.8%	99.5%	97.7%	90.0%
<b>第4節 きめ細やかな対応が必要な子どもと親への取り組みの推進</b>						
<b>(1)児童虐待防止対策の充実</b>						
虐待の相談件数(人)	47人	35人	34人	39人	48人	60人
セミナー等の開催回数	1回	1回	1回	2回	1回	4回
<b>(2)ひとり親家庭等への自立支援の推進</b>						
母子・父子自立支援員の配置	1人	2人	2人	2人	2人	2人
自立のための訓練等の利用者	5人	5人	2人	0人	1人	8人
<b>第5節 子どもの成長と子育てをみんなで支える意識づくり</b>						
<b>(1)社会全体の意識づくり</b>						
臼杵っこ検定受験率	16.0%	22.2%	15.4%	19.0%	17.0%	20.0%
<b>第6節 子育ても仕事もしやすい環境づくり</b>						
<b>(3)父親の育児推進</b>						
父親の育児講座開催数	0回	0回	1回	2回	1回	10回

## 4 本市における子育て支援に関わる課題

本計画の策定にあたっては、子ども・子育て会議での意見や実態調査の結果及び第1期計画の施策進捗評価に基づき主な課題をあげました。本計画では、これらの課題を解決するための施策を優先的に推進します。

### 課題1 「ちあぽーと」を中心とした関係機関の専門性の向上と機能強化

子育てに関わる相談内容は子どもの成長とともに変化します。妊娠期から出産・子育てまでの子どもの切れ目のない子育て支援や相談体制を充実させるため、白杵市子ども・子育て総合支援センター「ちあぽーと」を中心とした専門機関や専門職等の周知を図るとともに、相談窓口の機能強化が必要です。

### 課題2 子どもを産み育てたいと思う人への支援の充実

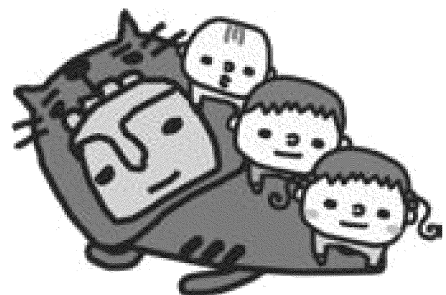
産科・小児科・精神科との連携を強化し、産婦健康診査、産後ケア等の体制整備に取り組む必要があります。また子どもを産みたい人が産むことができるよう不妊治療に関する助成や医療費助成、予防接種の充実等による負担軽減により、子どもを産み育てやすい環境づくりが必要です。

### 課題3 子育て中の保護者に対する情報発信の推進と強化

子育て中の保護者がそのライフステージに応じた子育てサービスを選択できるよう、支援施策等の情報発信の推進及び強化が必要です。

### 課題4 幼児教育・保育環境の充実

幼児教育・保育環境の充実や保育・教育の質の向上に努める必要があります。障がいを持つ子どもや医療的ケアなどが必要な子どもへの対応の充実を図るとともに、子育てを支える人材育成や活用、親子の絆を深める学びの場の充実が必要です。





---

## 課題5 放課後生活の充実と環境整備

---

実態調査の結果から、平日日中以外でも土曜日や長期休暇中における「放課後児童クラブ」の利用意向は高くなっており、子どもの成長にとっては、学校教育のみならず社会教育や、家庭や地域で過ごす放課後生活の充実に焦点をあてた政策が求められています。

人材の確保と経営安定化及び教育と福祉の連携により、環境整備等による放課後生活の充実に必要があります。

---

## 課題6 子どもの貧困対策

---

子どもの将来が、その生まれ育った家庭の事情等によって左右されることのないよう、貧困が世代を超えて連鎖することがなく、すべての子どもたちが夢と希望を持って成長していけるよう、子どもの貧困対策を総合的に推進する必要があります。

---

## 課題7 発達障がい等の早期発見・早期支援の実施

---

医療・保健・福祉・教育等の連携により、発達障がい等の早期発見・早期支援を実施し、保護者の育児不安の軽減を行い、すべての子どもが安心して健やかに地域で過ごせるよう支援が必要です。

---

## 課題8 児童虐待の未然防止や早期発見・早期対応の取組について

---

虐待の未然防止をはじめ、虐待を受けた子どもや虐待の疑いがある子どもの早期発見・早期対応等を行うため、白杵市要保護児童対策地域協議会を中心に、児童相談所や警察等の関係機関との情報共有や連携をさらに強化することが必要です。

---

## 課題9 いじめ・不登校の児童生徒に対する取組について

---

いじめからすべての子どもを救い、心豊かで安心・安全な社会をつくることは、学校を含めた社会全体の課題です。いじめを見逃さない教育体制や社会のつながり、早期対応・解決に向けた関係機関の連携強化が必要です。

いじめ対策や不登校支援については、学校をとりまく家庭・地域を含む関係団体とチームとして取り組む体制を確立・強化し、組織的に対応することが必要です。